

Ⅲ-2-2 島の文化

かつて島の生活は、多くの道具を身近な素材で作る知恵によって支えられてきた。しかし、稲作の機械化や安価な工業製品の流入によって、これらの伝統文化が身の回りから消えつつある。

今日、これらの生活の知恵が見直されてきている。単なる道具作りの技術ではなく、作る行程の中には自然とともに暮らす知恵がたくさん詰まっているからである。植物の特性を知り、目的によって素材を使い分け、最もよい材料がとれる時期を見定め、全てを取り尽くすことがないように親木を痛めない工夫がある。これらの作業は自然との対話である。道具作りから新たな自然の魅力に気づき、自然との共生の一つのあり方を学ぶ。

①草玩具

植物の葉で作る玩具は、子供たちに自然の楽しさを学ばせる格好のプログラムである。馬や金魚・風車は小学校低学年でも作ることができる。いずれも身近にある植物を使って作る。自然と知恵があれば楽しく遊べることを学ぶ。

②八重山の伝統凧 1

八重山は凧の宝庫である。かつては子どもたちがアダナシ（アダンの根）で凧糸を作り、大晦日に父親と凧を作って、正月や十六日祭に凧を揚げるのが風習となっていた。カーブヤーは小学校低学年でも作ることのできる凧である。

③藁民具

米の収穫後に得られた藁は、様々な生活道具に姿を変え、田圃の肥料ともなり、まさに循環型社会であったかつての島の暮らしを支えていた。藁民具を学ぶことは、島の文化に通じ、や箒といった道具作りを通して、先人の知恵と藁という素材のすばらしさを知ることができる。

④八重山の伝統凧 2

小学校中学年では少し難しい六角や八角凧に挑戦させよう。

⑤アダン葉草履

アダンはトゲのあるやっかいな植物として認識されがちであるが、かつては食料や道具作りの素材として重宝された植物である。そこから生み出される道具は、非常に優れたものばかりである。材料取りや下ごしらえから完成までの行程を通

して、自然とのつきあい方を学ぶ。

⑥八重山の伝統風3

小学校高学年では八重山の代表的な風であるピキダーに挑戦させよう。

⑦芭蕉の糸づくり、⑧天然染料で染める

八重山の伝統的な服飾文化は、西表島の自然が育てたとと言っても過言ではない。西表島の山野で育った植物から糸を紡ぎ、風土にあった布を織り、豊かな色で染め上げる。稲作を中心とした暮らしの中で、それらの衣服は島の暮らしや祭を豊かに彩っていた。

その後、生活様式が大きく変わり、衣料品のほとんどが大量生産の工業製品に取って代わられた。

今再び、八重山の染め織りは世界中から注目を浴びている。それは、懐古主義や希少価値ということだけで評価されているわけではなく、継承者たちが受け継ぐ理由も別な理由がある。なぜ注目されるのか、多くの若い人たちが面倒な手作業を受け継いでいるのはなぜなのかを、3年間で4つの染め織りの体験を通して考えてみる。

Ⅲ-2-2-1 草玩具〔対象：小学校低学年〕

プログラム	いろいろな葉っぱでオモチャを作ろう
ねらい	身近な植物での玩具作りを通して、遊びながら植物の特性を身につける。

〔学習の背景〕

- 子どもたちは身の回りにある身近なもので玩具を作っていた。
- 子どもたちは玩具作りを通して植物の特性を学んでいた。
- 玩具作りが、多くの民具作りの基礎となっている。
- 手業の技術が受け継がれなくなっている。

活動	具体的な学習内容
マーニで作る	マーニ（コミノクロツグ）を使って馬や金魚・指ハブを作る。
アダンで作る	アダンの葉を使って風車を作る。



材料のコミノクロツグ



マーニで馬を作る



アダンで風車を作る

授業形態	専門講師による出前授業
実施場所	小学校
観察方法	材料はあらかじめ準備しておく～講師の指示に従って作る。
材料	コミノクロツグ、アダンの葉
使用する機器	はさみ
実施時期	特に制限なし
所要時間	2時間
対象学年	小学校 第1学年及び第2学年
支援機関	星工房、西表島エコツーリズム協会
備考	西表小中学校では実績がある。

Ⅲ－２－２－２ 八重山の伝統凧１〔対象：小学校低学年〕

プログラム	カーブヤーを作ろう
ねらい	八重山の伝統的な凧作りを通して、昔ながらの凧作りや凧揚げの楽しさを知る。

〔学習の背景〕

- 八重山は日本でも有数の凧文化の発達した地域である。
- 子どもたちはアダンの根で細縄の凧糸を作り、大晦日に父親と一緒に凧を作って、正月や十六日祭に凧を揚げていた。
- カーブヤーは骨が少なく、構造が単純なことから初心者向けの凧である。
- 子どもたちは凧作りを通して刃物の扱いを学ぶ。
- 凧の骨作りは竹の太さの調整や表裏の特性の違いを生かして作る。
- 凧が上手にできても、凧糸の調整や風との駆け引きができないと、凧は揚がらない。
- 凧揚げは、子どもだけでなく大人も夢中になれる不思議な魅力を持った遊具である。

活動	具体的な学習内容
骨組み	骨を組み合わせる細工と糸の結びを学び、組み上げる。時間があれば複数同じものを作る。
絵付け	好きな絵を描いて、凧に貼り付ける。
凧揚げ	凧糸をつけ、バランスを見ながら調整し、凧を揚げる。複数作った場合は連凧にしてあげる。



平成 23 年新春凧揚げ大会石垣市

授業形態	専門講師による実技指導
実施場所	小学校
観察方法	材料はあらかじめ準備しておく～講師の指示に従って凧を作る～出来上がった凧を外で揚げてみる～上手に揚がらない場合は調整を試みる。
材料	半紙、ひご、糸、のり
使用する機器	はさみ
実施時期	特に制限はないが、普通は年末に作る。
所要時間	6 時間
対象学年	小学校第 1 学年及び第 2 学年
支援機関	P T A、星工房、西表島エコツーリズム協会
備考	低学年ではナタや切り出しなどの扱いは難しいので、材料はあらかじめ揃えておく。

Ⅲ-2-2-3 藁民具〔対象：小学校中学年〕

プログラム	藁で道具を作ろう
ねらい	藁を材料に道具を作り、藁の優れた特性に気づく。

〔学習の背景〕

- 藁は籾を脱穀したあとの稲の茎である。
- 藁からは多くの生活道具が作られてきた。
- 身の回りにあふれていた藁を原料とする製品（藁縄、藁半紙、畳床、蓑など）がいつのまにか姿を消している。
- 刈り入れの機械化により、その場で裁断されて田圃に撒かれるため、藁は貴重品となっている。
- 藁製品は、機能的に劣るものではない。
- 藁でできた道具は、最後は土に還る環境にやさしい製品である。

活動	具体的な学習内容
藁縄を作る	現在ナイロン製の紐やロープに姿を変えているものも、以前は藁から縄が作られていたことを知る。
藁民具を作る	藁を使って箒や虫かご・鍋敷きなどの道具を作る。作った道具を使ってみて、その使い心地を確かめる。



藁で作った箒



授業形態	専門講師による出前授業
実施場所	小学校
観察方法	藁から縄をなう～藁を使って玩具や日用品を作る。
材料	藁
使用する機器	はさみ
実施時期	特に制限なし。稲作の体験学習を実施している学校では、収穫後にとれた藁を使うとよい。
所要時間	3時間
対象学年	小学校 第3学年及び第4学年
支援機関	星工房、西表島エコツーリズム協会
備考	円座やお正月のしめ縄などにも対応可能（所要時間：1日）

Ⅲ-2-2-4 八重山の伝統凧 2 [対象：小学校中学年]

プログラム	六角・八角を作ろう
ねらい	八重山の伝統的な凧作りを通して、竹の特性と竹細工を学び、手業の楽しさを実感する。

〔学習の背景〕

- 八重山は日本でも有数の凧文化の発達した地域である。
- 子どもたちはアダンの根で細縄の凧糸を作り、大晦日に父親と一緒に凧を作って、正月や十六日祭に凧を揚げていた。
- 子どもたちは凧作りを通して刃物の扱いを学んだ。
- 凧の骨作りは竹の太さの調整や表裏の特性の違いを生かして作る。
- 凧が上手にできても、凧糸の調整や風との駆け引きができないと、凧は揚がらない。
- 凧揚げは、子どもだけでなく大人も夢中になれる不思議な魅力を持った遊具である。

活動	具体的な学習内容
下ごしらえ	骨は山から切り出した竹から作る。割り方と削り方を学び、材料をそろえる。
骨組み	骨を組み合わせる細工と糸の結びを学び、組み上げる。
絵付け	紙を凧に貼り付け、思い思いの絵を描く。
凧揚げ	凧糸をつけ、バランスを見ながら調整し、凧を揚げる。



平成 23 年新春凧揚げ大会石垣市

授業形態	専門講師による実技指導
実施場所	小学校
観察方法	材料をそろえる（山から竹を切り出し、その竹を割ってひごをつくる）～講師の指示に従って凧を作る～出来上がった凧を外で揚げてみる～上手に揚がらない場合は調整を試みる。
使用する材料	竹、半紙、糸、のり
使用する機器	ノコギリ、鉋、はさみ、切り出しナイフ
実施時期	特に制限はないが、普通は年末に作る。
所要時間	6 時間
対象学年	小学校第 3 学年及び第 4 学年
支援機関	星工房、西表島エコツーリズム協会

Ⅲ-2-2-5 アダン葉草履〔対象：小学校高学年〕

プログラム	アダンで草履を作ろう
ねらい	材料取りから下ごしらえ、編み上げなどの行程を通して、自然と人間の共生する知恵に気づく。

〔学習の背景〕

- 西表島の神事で正装の際に使われる伝統的な履き物である。
- 良質の材料が採れる時期は短い。
- 民具作りでは、素材の下ごしらえ（事前準備）が大切である。
- 様々な手業の集大成といえる。

活動	具体的な学習内容
材料をとる	草履作りに適したアダンとゲットウの見分け方、採取の方法を学ぶ。葉にはたくさんのトゲがあるため注意して材料を採取する。
下ごしらえ	アダンの葉とゲットウの茎の加工の仕方を学び、編みやすい状態にする。
草履を編む	草履の編み方、形を整えるコツや、しっかりと編み込む力の入れ具合などを学ぶ。
草履を仕上げる	鼻緒を取り付け、草履を仕上げる。完成後、履き心地を楽しむ。



授業形態	専門講師による出前授業
実施場所	小学校
観察方法	アダンとゲットウを採取する～アダンとゲットウを加工し材料にする～草履を編む
使用する材料	アダン、ゲットウ
使用する機器	鉋、鎌、はさみ
実施時期	特に制限なし
所要時間	10時間（2時間×5回）
対象学年	小学校 第5学年及び第6学年
支援機関	星工房、西表島エコツーリズム協会
備考	材料を採取時期は5～6月頃が望ましい。



アダン葉草履

Ⅲ-2-2-6 八重山の伝統凧3 [対象：小学校高学年]

プログラム	ピキダーを作ろう
ねらい	八重山の代表的な凧作りを通して、手業の奥深さに気づき、地域文化を継承しようとする意識を高める。

〔学習の背景〕

- 八重山は日本でも有数の凧文化の発達した地域である。
- 子どもたちはアダンの根で細縄の凧糸を作り、大晦日に父親と一緒に凧を作って、正月や十六日祭に凧を揚げていた。
- ピキダーは八重山を代表する凧であり、最も人気が高い。
- 子どもたちは凧作りを通して刃物の扱いを学んだ。
- 凧の骨作りは竹の太さの調整や表裏の特性の違いを生かして作る。
- 凧が上手にできても、凧糸の調整や風との駆け引きができないと、凧は揚がらない。
- 凧揚げは、子どもだけでなく大人も夢中になれる不思議な魅力を持った遊具である。

活動	具体的な学習内容
下ごしらえ	骨は山から切り出した竹から作る。割り方と削り方を学び、材料をそろえる。
骨組み	骨を組み合わせる細工と糸の結びを学び、組み上げる。
絵付け	紙を凧に貼り付け、思い思いの絵を描く。
凧揚げ	凧糸をつけ、バランスを見ながら調整し、凧を揚げる。



平成 23 年新春凧揚げ大会石垣市



授業形態	専門講師による実技指導
実施場所	小学校
実施時期	特に制限はないが、普通は年末に作る。
観察方法	材料をそろえる（山から竹を切り出し、その竹を割ってひごをつくる）～講師の指示に従って凧を作る～出来上がった凧を外で揚げてみる～上手に揚がらない場合は調整を試みる。
使用する材料	竹、半紙、糸、のり
使用する機器	ノコギリ、鉋、はさみ、切り出しナイフ
所要時間	6 時間
対象学年	小学校 第 5 学年及び第 6 学年
支援機関	星工房、西表島エコツーリズム協会

Ⅲ-2-2-7 芭蕉の糸づくり [対象：中学校]

プログラム	芭蕉で糸をつくろう
ねらい	糸芭蕉が生活の中でどのように活かされているのかを知る

〔学習の背景〕

- 糸芭蕉は世界の中で沖縄を代表する美しい繊維であり芭蕉布は国の重要無形文化財に指定されている。
- 特に八重山の島々ではどの地域にも自生している植物である。
- 糸芭蕉は、風よけ、葉は料理のラッピング、渋はコーティング、繊維は織物になり、地域の生活に密着している。

活動	具体的な学習内容
芋倒し（うーとーし）	畑に入り糸芭蕉を切り倒しその生態を知る。
糸を作る	一本の葉茎から数枚の皮を剥ぎ、糸をとり出す。 皮芭蕉糸をつくる。 灰汁で煮て繊維糸をつくる。 コヨリにして編む、組む、ひもにする。
織る	芭蕉交布を織る（緯糸に入れる）。
海ざらし	完成した糸や布は海ざらしをすることにより、不純物を落としカビ防止となる。





海ざらし

授業形態	専門講師による実技指導
実施場所	紅露工房
観察方法	講師の指示に従って作業を行う
使用する機器	座繰り一式、織機一式、染色道具一式
機器・材料等 所有機関	紅露工房
実施時期	特に制限なし（冬がよい）
所要時間	通算 16 時間
対象学年	中学校
支援機関	紅露工房
備考	海ざらしは潮の時間を調べて実施する。

Ⅲ-2-2-8 天然染料で染める [対象：中学校]

プログラム	天然染料で染める
ねらい	八重山で使われてきた植物から採取された天然染料で布を染める

〔学習の背景〕

- 布を染めることは古くから行われてきた。染めることで、防虫・防腐などの効果がある。
- 伝統的に利用されてきた植物染料の多くが西表島にあり、身近にある植物も少なくない。島の自然が八重山の伝統的な服飾文化を育てた。
- 天然染料はすべて薬であり、発色の過程で色が変化をしていく。その過程を体験することができる。

活動	具体的な学習内容
布の準備	染める布に、しぼり・板締めなどで柄をつける。
染料の準備	季節にあった天然染料を準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紅樹（ひるぎ） 枝から皮を落とし、落とした皮を鍋に入れ炊き出す。 ・ 福木 福木の樹皮をはがし、細かいチップ状にし、鍋に入れ炊き出す。 ・ クチナシ 実を叩いてつぶし、鍋に入れ炊き出す。 ・ 紅露（くうる） 根茎を細かいチップ状にし、鍋に入れ炊き出す。
布を染める	布を染液に浸ける。
媒染する	染めた布を石灰や灰汁などのアルカリ液で発色させる。
海ざらし	海でさらす。ひるぎに限り、海ざらしの前に天日にさらす。
仕上げ	水洗いをして干して仕上げる。



くうる（紅露）



琉球藍

授業形態	専門講師による実技指導
実施場所	紅露工房
観察方法	講師の指示に従って作業を行う
使用する機器	染色道具一式
機器・材料等 所有機関	紅露工房
実施時期	3月～11月
所要時間	4時間
対象学年	中学校
支援機関	紅露工房
備考	季節にあった染料を使用する。 海ざらしは潮の時間を調べて実施する。 材料費の負担をお願いしたい。